

2008年7月24日

国会議員 様

要 望 書

活断層上の再処理工場は中止して下さい

人々がこの国で末永く安心して暮らせるために
ご尽力をお願いします

国への要望事項

「六ヶ所村再処理工場直下に活断層の存在が否定できない限り、工場の操業は中止させて下さい」

理由

1) 5月24日渡辺東洋大教授が再処理工場直下に活断層がある可能性が高いと指摘しました。既知の大陸棚外縁断層とつながっている可能性があり、その場合はマグニチュード8級の地震が起きる恐れがあるとも指摘されています。

2) 再処理工場には、現在絶えず冷却し排気しなければならない高レベル廃液が多量に(約210m³)貯蔵されています。直下地震により電源喪失、パイプの破断等により沸騰し環境へ放出されるとチェルノブイリ事故以上の大惨事になる可能性があります。

3) 北欧、米、カナダ、西独などの国は原発の使用済み核燃料は再処理せずそのまま貯蔵しています。

三陸の海を放射能から守る岩手の会
連絡先 020-0004 岩手県盛岡市山岸 6-36-8
電話・fax 019-661-1002 永田方

「再処理」直下に活断層か

六ヶ所

M8級地震の恐れ

東洋大教授ら指摘

再処理工場などがある六ヶ所村の日本原燃・核燃料サイクル施設の直下に、これまで未発見だった長さ十五キロ以上の活断層がある可能性が高いとの研究を、渡辺満久東洋大教授(地質学)らが二十四日までにまとめた。

沿岸部海域の「大陸リ、その場合、断層の(M)8級の地震が起きる恐れがあるという。断層は昨年、新潟県中越沖地震とほぼ同じだが、教授は今回の研究を踏まえ「耐震性を層や地形を調査。東側M6・9の直下型地震



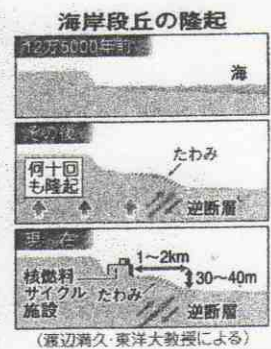
使用済み核燃料再処理工場。06年3月、六ヶ所村

再検証すべきだ」と指摘している。渡辺教授は研究結果を、千葉市で二十五日から開かれる日本地球惑星科学連合大会で発表する。教授らは、サイクル施設周辺で露出した断層や地形を調査。東側には地表のたわみと位置や幅が一致する、傾いた地層がみられた。教授は「地表のたわみが断層活動による隆起でできたことを示す証拠だ」として、一連の地形を断層によるものだと判断。地層に含まれる火山灰の年代が

「本体」見逃しか再検証を

直下に活断層「たれると、国に報告しなかった」と評価してきたが、直下の断層の存在とともに、原燃は再検証すべきだ。(共同通信・鎌田幸司)

見逃しの原因は、広い範囲で地形を見なかつた「念のため」の想定で、直下型地震による被害を検証した。原燃を耐震指針の改定に伴う作業で、施設から約六キロ離れた「出戸西方断層」が、確認されている長さ六キロではなく、敷地内まで延びていると仮定。その地震による活動性も問題だ。原燃は「新しい時代の活動



確保されていることも確認している。大陸棚外縁断層は古い断層で、国の新耐震指針の評価対象外だ。学説見ているいない山口昇・環境生活部長(渡辺氏の)学説をまだ見えていないし、コメントすることはない。原燃が新耐震指針に照らした検討結果をまとめ、現在、国でその内容をチェックしている最中ということだ。

強いている。原燃は昨年、施設に近い長さ約六キロの「出戸西方断層」を大きく見逃して耐震安全性を検討したが、渡辺(東通村)や、隣接地に建設予定の東京電力・東通原発の約十キロ沖合にある。きたもので、原燃は断層の本体を見逃した形になる」としている。大陸棚外縁断層は、東北電力・東通原発(東通村)や、隣接地に建設予定の東京電力・東通原発の約十キロ沖合にある。

活断層ない日本原燃の話 反射法探査などで、再処理工場の敷地が直下で起きることも仮定した上で、耐震安全性が十分

内容読んで話す 古川健治・六ヶ所村長 学説の内容が分からないので、今はコメントしようがない。学会で発表された後、内容をしっかり読んでからコメントしたい。

